

令和7年度 第1回学校評価考察

能登町立小木小学校

	重点目標	評価の観点	評価：達成度判断基準	総合	達成状況（考察と改善方針等）
1	<p>学びに向かう力、考え、表現する力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の発話を中心とした授業実践 ○一人一台端末を活用した、個に対応した授業実践 ○保護者・地域住民・子ども園、中学校、高等学校と連携した教育活動の充実 ○保護者と連携した家庭学習の充実 	<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問われたことに対して、正しく説明している。」と答える児童の肯定的評価 	<p>児童アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (88.1%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「問われたことに対して、正しく説明している。」と答える児童の肯定的評価も、「友達の考えを聞いて、自分の考えを書き直したり、付け足したりすることができた。」と答える児童の肯定的評価も、88.1%であった。校内研修などを通して、具体的取組を明確にして、実践してきた成果といえる。 ・児童の肯定的評価に加え、日々の授業で正しく説明し、ねらいを達成することを積み重ねる必要がある。 ○「児童の発話を中心とした授業を心掛けている」の職員の肯定的評価は100%だった。研究授業や相互参観ウィークを通して、児童の発話を中心とした授業を意識してきた成果と言える。 ・実際の授業が、教師：児童の発話の割合が4：6になるように、教師の発話内容や問い返しを吟味しながら授業改善していく。 ○「お子さんは、授業(勉強)の内容がよく分かると感じている。」と答える保護者の肯定的評価は、87.8%であった。授業参観や家庭学習の状況から、児童の学習の様子が、保護者に伝わっているといえる。 ・学校と保護者の連携を大切にし、日頃から児童の学習の様子を伝えることを継続していく。
	<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「友達の考えを聞いて、自分の考えを書き直したり、付け足したりすることができた。」と答える児童の肯定的評価 	<p>児童アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (88.1%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 			
	<p><満足度指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お子さんは、授業(勉強)の内容がよく分かると感じている。」と答える保護者の肯定的評価 	<p>保護者アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (87.8%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 			
	<p><努力指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童の発話を中心とした授業を心掛けている。」と答える教職員の肯定的評価 	<p>教職員アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 			
	<p><努力指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ICTを活用した授業に取り組んでいる。」と答える教職員の肯定的評価 	<p>教職員アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (90%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 			

2	<p>失敗に挫けず、前に進む力の向上 ふるさとを大切に思う気持ちの涵養</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達支持的生徒指導の充実 ○自己肯定感を高める教育の実践 ○海洋教育を中心としたふるさと教育の充実 ○いじめ・不登校未然防止、早期発見、早期解消のため、関係機関との積極的な連携体制の構築 	<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は楽しい。」と答える児童の肯定的評価 	<p>児童アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (88.1%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校は楽しい。」と答える児童の肯定的評価が88.1%となり、昨年度よりも11.4%上昇した。学校経営方針にある「チャレンジ意欲」を向上させる声掛けや取り組みの成果だと考えられる。 ○「子どもの不安や悩みを理解し、個に応じた指導に取り組んでいる。」と答える教職員の肯定的評価は100%となった。なかよしアンケートの結果から、子どもの不安や悩みを聞き、個に応じた指導をしているからだと考えられる。 ○「学校はいじめ・不登校のない楽しい学級づくりに努めている。」と答える保護者の肯定的評価は100%と、昨年度と同じだった。今後も保護者からの信頼と学校の教育活動への理解を得ていくために、こまめに児童・保護者とのコミュニケーションをとっていく。 ・今後もなかよしアンケートやQUで気になる児童について、個別に面談を行っていく。 ・児童集会で自己肯定感を高める活動を計画的に行っていく。 	
<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小木の町や海を大切にしようと思う。」と答える児童の肯定的評価 	<p>児童アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (97.6%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 	<p><満足度指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校はいじめ・不登校のない楽しい学級づくりに努めている。」と答える保護者の肯定的評価 	<p>保護者アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 		A	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校は、子どもの事について気軽に相談できる」と答える保護者が100%であった。児童の様子を学級だより等でお知らせしたり、普段からこまめに連絡を取り、児童一人一人について担任や職員が丁寧に対応、説明したりすることを心掛けている成果と考える。 ・気軽に相談できる学校を意識し、今後も継続して取り組んでいく。 ・学校だより、学級だより等は具体的な内容でこれからもわかりやすく作っていく。 ・ホームページの更新は、情報担当が職員へ啓発し、頻度をあげていく。 ○92.9%の児童が、「先生は、話を聞いてくれる」に肯定的な回答をしている。なかよしアンケート(いじめアンケート)の月1回の実施やそれに基づく面
<p><努力指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの不安や悩みを理解し、個に応じた指導に取り組んでいる。」と答える教職員の肯定的評価 	<p>教職員アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 	<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、子どもの事について気軽に相談できる。」と答える保護者の肯定的評価 	<p>保護者アンケートの肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 			<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談できる学校を意識し、今後も継続して取り組んでいく。 ・学校だより、学級だより等は具体的な内容でこれからもわかりやすく作っていく。 ・ホームページの更新は、情報担当が職員へ啓発し、頻度をあげていく。
<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「外部機関における専門的な研修の機会を設け、知識や技能を習得している。」と答える教職員の肯定的評価 	<p>教職員アンケートの肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 	<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長座体前屈の記録の比較 	<p>6月の体力測定記録より伸びた児童が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 			
3	<p>安全・安心な学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校からの積極的な情報発信 ○地域と連携した防犯・防災体制の構築 ○防災教育の充実、生命にかかわる食物アレルギーへの組織的で確実な対応 ○健康や運動への関心をもち、体力が向上する教育活動の工夫 ○災害後の心のケアの重視 ○職員の危機管理体制の構築 	<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、子どもの事について気軽に相談できる。」と答える保護者の肯定的評価 	<p>保護者アンケートの肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校は、子どもの事について気軽に相談できる」と答える保護者が100%であった。児童の様子を学級だより等でお知らせしたり、普段からこまめに連絡を取り、児童一人一人について担任や職員が丁寧に対応、説明したりすることを心掛けている成果と考える。 ・気軽に相談できる学校を意識し、今後も継続して取り組んでいく。 ・学校だより、学級だより等は具体的な内容でこれからもわかりやすく作っていく。 ・ホームページの更新は、情報担当が職員へ啓発し、頻度をあげていく。 ○92.9%の児童が、「先生は、話を聞いてくれる」に肯定的な回答をしている。なかよしアンケート(いじめアンケート)の月1回の実施やそれに基づく面 	

		<p><満足度指標> ・「先生は、話を聞いてくれる。」と答える児童の肯定的評価</p>	<p>児童アンケートで肯定的評価が A: 80%以上 (92.9%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満</p>	<p>談、普段の関わりの成果と考える。児童同士のトラブル等の対処をする際も双方の話をよく聞き丁寧な対応を続けていく。 ○安全なまちづくりについて、震災後、教職員の防災意識が高まったことにより、社会科や道徳科、学級活動等で防災教育を行っている。</p>
<p><満足度指標> ・「教育方針や子どもの様子が学校・学級だよりやホームページ等で分かる。」と答える保護者の肯定的評価</p>	<p>保護者アンケートの肯定的評価が A: 80%以上 (97.6%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満</p>			
<p><努力指標> ・「安全なまちづくりや洪水の危険、いざという時の備え等、防災を関連付けた授業を取り入れている。」と答える教職員の肯定的評価</p>	<p>教職員アンケートの肯定的評価が A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満</p>			
<p>4</p>	<p>プロとしての自分を磨き、子どもに関わりきる教職員 ○サービス規律の遵守 ○教職員の資質・授業力向上</p>	<p><成果指標> ・「職員研修で学んだことを積極的に校務に生かしている。」と答える教職員の肯定的評価</p>	<p>教職員アンケートの肯定的評価 A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満</p>	<p>A</p> <p>○いずれの指標も肯定的評価が 90%を超える高い評価となった。週に一度、校長からの指示伝達により、職員のサービス規律を守る意識が高まっている。また、職員室に学級や授業について相談しやすい雰囲気がある。 ・児童一人一人について担任や職員が丁寧に見取り、つまづきをどう解消していくか、引き続き授業力を向上させていく。</p>
<p><満足度指標> ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と答える児童の肯定的評価</p>	<p>児童アンケートの肯定的評価が A: 80%以上 (92.9%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満</p>			
<p><努力指標> ・「サービス規律を遵守している。」と答える教職員の肯定的評価</p>	<p>教職員アンケートの肯定的評価が A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満</p>			

5	多忙化改善・業務の効率化 ○働き方改革の意識 ○業務の効率化の推進	<成果指標> ・「自分の業務に見通しを持ち べ切や時間を意識して取り 組んでいる。」と答える教職 員の肯定的評価	教職員アンケートの肯定的評価が A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満	A ○どの項目も肯定的回答が高い結果となった。働き方 改革について研修や職員打合せ等で理解を求めて きたことにより、見通しをもちながら業務を進める 意識が高まっている。ICTの活用により、連絡・報 告等を素早く行う工夫等も効果的であった。 ・業務の効率化については、まだ工夫の余地がある。 仕事の優先順位をつけ、自身で時間を決めて業務を 行っていくよう、若プロ研修等を通して理解を図っ ていく。 ・業務が一人に集中しないよう、一人一人の状況を見 て業務を割り振ったり、ベテラン教員が若手教員の サポートを行ったりしながら、組織全体で教育活動 を進めていく体制をさらに整えていく。
		<満足度指標> ・「業務改善を意識し、業務の 効率化を図るための工夫を している。」と答える教職員 の肯定的評価	教職員アンケートの肯定的評価が A: 80点以上 (81.8%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満	
		<努力指標> ・「効率的に業務を行うために、 身辺(机まわり)を整理整頓 し共有物の扱いにも気を配 っている。」と答える教職員 の肯定的評価	教職員アンケートの肯定的評価が A: 80%以上 (81.8%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満	